

新人大図鑑 2022

令和4年5月20日発行（毎月1回20日発行）
第41巻第5号通巻464号
昭和57年6月9日第三種郵便物認可

美術の窓

5
May
2022
No.464

THE WINDOW OF ARTS

全国17大学 卒展レポート

- 東京藝術大学
- 多摩美術大学
- 武蔵野美術大学
- 日本大学
- 女子美術大学
- 東京造形大学
- 東京工芸大学
- 筑波大学
- 東北芸術工科大学
- 金沢美術工芸大学
- 愛知県立芸術大学
- 名古屋芸術大学
- 京都市立芸術大学
- 京都芸術大学
- 広島市立大学
- 九州産業大学
- 崇城大学

NEW
大新
図鑑
2022

史上最多
461名
一挙紹介

技法講座 風景を遠近の対比により美しく表現する〈中編〉高橋雅史

公募展便り 人展・白士会展・白日会展・日本南画院展・日輝展・春季二紀展・独立春季新人選抜展



8 田代光 「しおい」

洋画・学部

〈作家コメント〉 2016年の熊本地震で被害に遭い、今も修復されずに残る潮井神社を題材に、逆光や光に透ける葉の表現にこだわって描きました。地震で崩れた史跡や文化財をテーマに描いてきた中でも、潮井神社は大きな画面で描きたい題材だったので、150号で描ききることが出来て満足しています。



10 下田真実 「上色見熊野座神社」
「寂心さんのクズ」

日本画・学部



7 松尾勇気 「つなぐもの」

洋画・学部



11 松本雅彦 「日常のカタチ」

日本画・学部



9 蒲原岳 「海」

洋画・学部



12 ヘラット・ムディヤンセラゲ・ニルミニ・マダヴィ・バンダラ 「水の天使」

日本画・修士

Information

- 創立年 1949年
- 2021年度学部卒業生数 48人
- 2021年度大学院修了生数 4人
- アート系学部・学科

【学部】 芸術学部 美術学科(日本画、洋画、彫刻、芸術文化、視覚芸術)、デザイン学科(プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、マンガ表現)

【大学院】 芸術研究科(美術、デザイン、[博士後期課程] 芸術学)

【住所】 熊本県熊本市西区池田4-22-1

会期●2月22日~2月27日 会場●熊本県立美術館 分館

崇城大学

芸術学部卒業展・

大学院芸術研究科修了展



3 高松茉莉 「近所」

洋画・学部



2 岡崎遥佳 「まだ夢の中」

洋画・学部



1 中野琴音 「自画像」

洋画・修士



6 松村盛仁 「GATE」

洋画・学部



5 四宮由貴 「ぼほーデイジー」

洋画・学部



4 米元朋華 「ma lune」

洋画・学部

作品から立ち上がることができます。

● **A** 松尾勇気さんは一見抽象的なのですが、その中から形態が浮かび上がってきます。まるで自分を探し当てようような描き方が印象的です。田代光さんは倒木のある場所に差し込む光やそこに新たに芽生えた生命の輝きを描いています。素朴さを見つめる眼差しが感じられますね。

● **B** そうですね。蒲原岳さんの作品は雄大に海を描こうという意志が感じられ、好感を持ちます。

● **下田真実**さんは神社や楠の太木といった、自然に棲まう神を捉えようとしているようで、鑑賞によって精神が清められるような感じがあります。

● **C** 松本雅彦さんは服や靴、ゲームのコントローラーなどをモチーフとして描いています。ヘラット・ムディヤンセラゲ・ニルミニ・マダヴィ・バンダラさんの作品ですが、蓮を描いており、不思議な壮大さがあります。本国では蓮は年中咲いているそうで、蓮から受ける印象の違いが大きいですね。

● **C** 中野琴音さんの作品は、自宅でこちらを見上げている猫のいる空間と、窓の向こう側の空間が自分を通して繋がっているという世界の不思議さを描いているようです。

● **岡崎遥佳**さんは都市の営みの上に海が広がり、アザラシが乗った鯨型の潜水艦がゆったりと進んでいく幻想的な様子を描いています。夢のある作品だと思えます。

● **B** 高松茉莉さんの描く身近な風景にも注目しました。空や土手、木々の印象を大切にしながら描いています。そこで生活する人々の行動を具体的に描いています。そのコントラストが面白いと思います。

● **米元朋華**さんは、点描で人物と数匹の猫を描いているのですが、量感のある、とても良い作品だと思いました。しっかりと形を捉えています。

● **四宮由貴**さんはハトの群れを花が咲いたように表現して、ハトへの深い愛情を感じることが出来ます。そうした生き物への深い愛着は松村盛仁さんの作品からも感じられます。飼い犬との日々の暮らしの中でだんだんと強固になる絆のイメージが

奥森日向子



おくもり・ひなこ 1997年生まれ、鹿児島県出身。崇城大学大学院芸術研究科美術専攻修了。日展会友。2020年日展特選。①北村西望。②映画：「SING」、音楽：QUEEN、漫画：「北斗の拳」、アニメ：「ティーンエイジ・ミュタント・ニンジャ・タートルズ」。

—— 崇城大学への入学を決めたきっかけは何ですか。

受験生の夏にオープンキャンパスで私が塑造の林檎を作ったのを、当時大学で教鞭を執っていた楠元香代子先生が覚えていてくださって、私がAO入試の願書を出していないことに気づき、高校まで直接出向いて入学を進めてくださったことがきっかけです。高校生活に馴染めず不登校だった私は進学どころか卒業すら危うい状況

でしたが、それからは何とか入学するんだという強い想いで高校生を送りました。当時、周りで支えてくれた家族や担任の先生、美術部の顧問の先生をはじめとするたくさんの方には感謝してもしきれません。

—— 修了制作のテーマを教えてください。

「人の手が加わっていない自然物がありのままに受け入れて見たときの美」と定義とされる「自然

美」の追求をテーマに、造形と素材の二つの観点からアプローチしました。造形の観点では、先入観や固定観念を捨て去り、五感を使ってありのままにモデルを造形しようという心がけました。そして、素材の観点では土にこだわりました。全てのものはいずれ崩壊し、土に還ります。土は全てのものを内包していると言っても過言ではなく、自然美を表現するのに最適な素材です。土を焼いてそのまま完成さ

せる陶彫で制作することを決め、大学院までの6年間私を育ててくれた熊本の天草陶土を胎(素体)に、生まれ故郷である鹿児島島の火山灰を釉薬(着彩)に使用しました。

—— 今後の活動予定を教えてください。

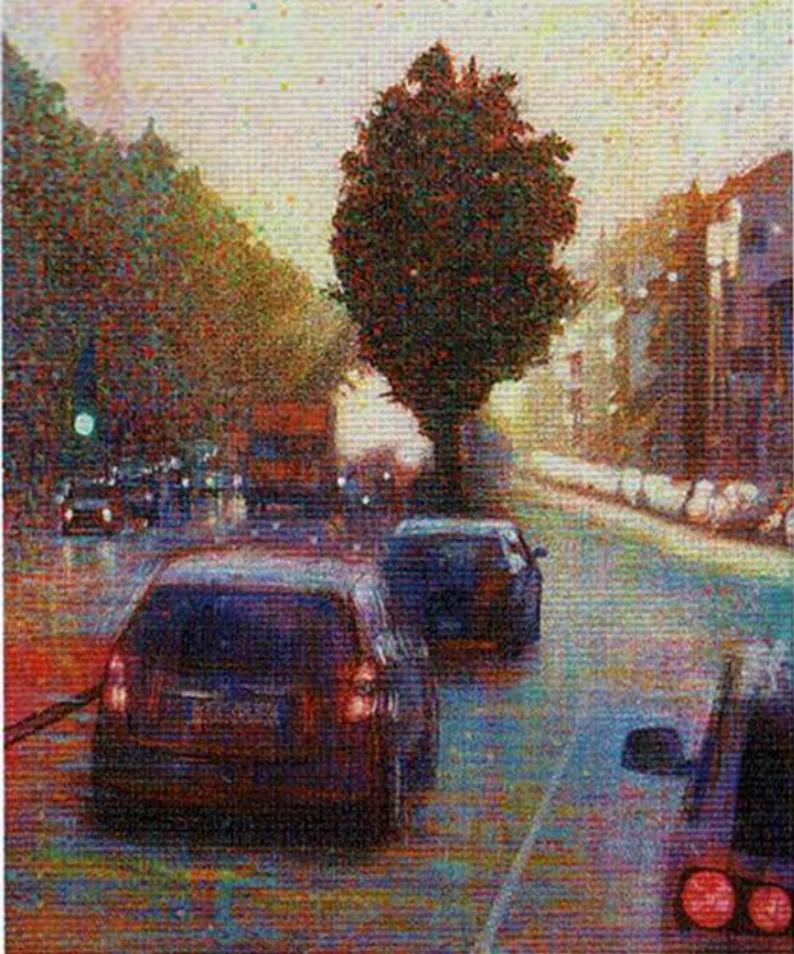
鹿児島に拠点を構えて彫刻家として活動します。人物の具象彫刻を中心に、自然と調和し、人を癒せるような作品を目指して日々取り組んでいきたいです。



「沈黙—調和—」 彫刻・修士

熊谷有展「冬へいそぐ街角」。格子状のイメージをベースに光と影の情景を広げる熊谷作品。さらに点描によって風景を浮かび上がらせていつている。車が何台も行き交う通り沿いと中央分離帯に、逆光のシルエットで樹木が立ち上がる。その表現が面白い。赤や青緑といった色彩がポリウム感を作っていく中に、どこか孤独感が感じられてくる。

熊谷有展「冬へいそぐ街角」



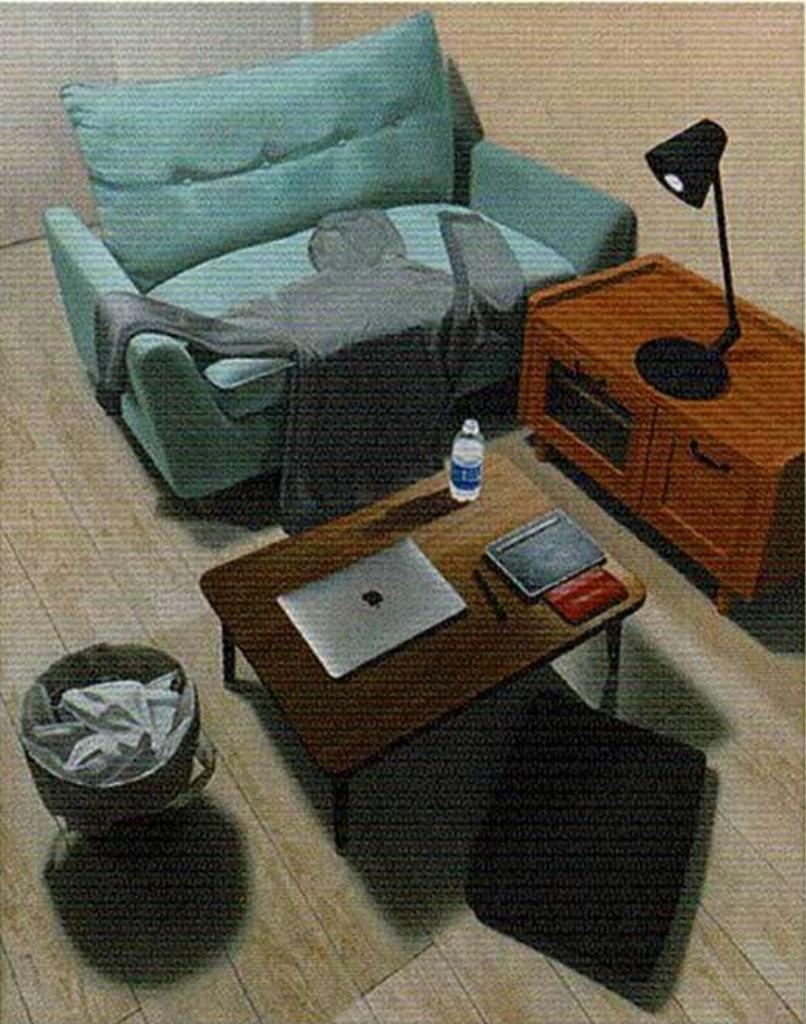


柳田也寿志「黄色い車といつもの庭」

柳田也寿志「黄色い車といつもの庭」。
鮮やかな色彩がモザイク状に構成されている。左下方では、一人の子供が黄色いミニカーで遊んでいる。草木のみずみずしい生命の力とその車が、不思議とイメージとして響きあうところに面白さが感じられた。

川路桐耶「アパートの自室」一般佳作賞。
淡々と描かれた自宅の部屋の様子が面白い。
飲みかけのペットボトルやパソコン、脱ぎ
置かれたパーカーなどが生活感を感じさせ、
現代の若者の日常の虚無感もそこに感じら
れた。

川路桐耶「アパートの自室」一般佳作賞



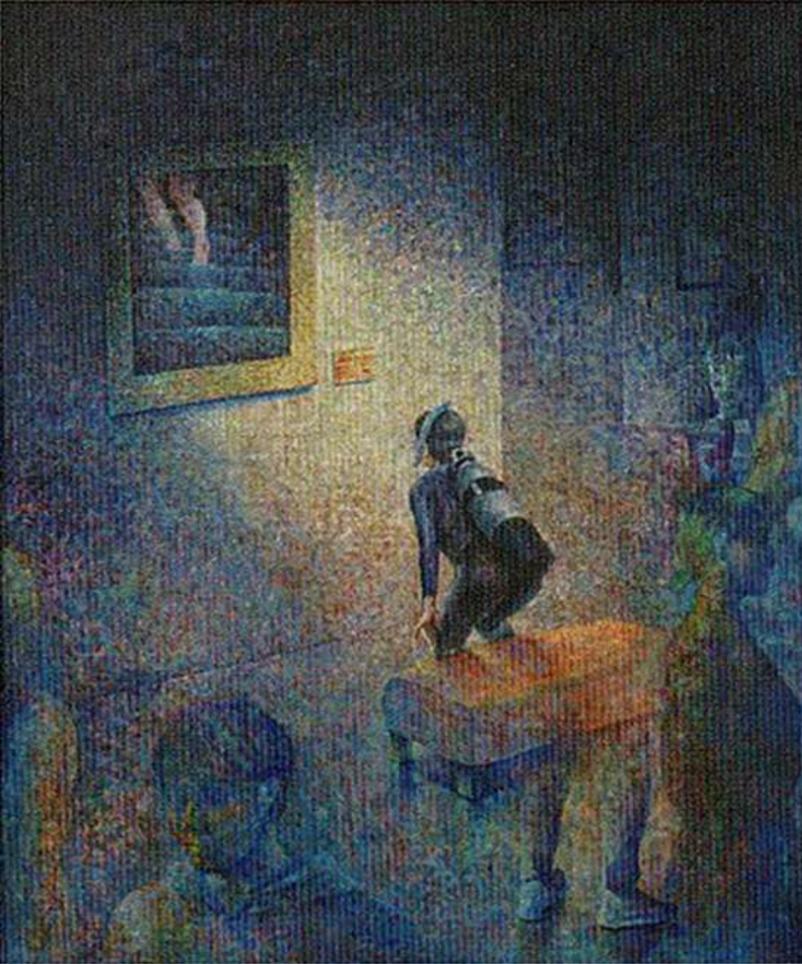
永田和之「AM 1:06」。洗面場で前髪を切る女性の後ろ姿を描いている。真夜中の屋内でぼうつと灯る光の表現が面白いと思う。一人暮らしを思わせる家具の数々を配置しながら、若い女性の繊細な内面と響き合うような光の表現が印象に残った。

永田和之「AM 1:06」



糸数田平「Like a star」。シュールな画面が夢の中のようなイメージを引き寄せる。美術館内で、スキューバダイビングの格好をした人物が腰をあげようとしていて、その視線の先には階段を上る人物の足の絵が掛かっている。その絵の中もまたもう一つの空間が続くようで、見えて面白い。

糸数田平「Like a star」



松尾勇氣「緘黙」梅田画廊賞。激しい感情が色彩となって画面に現れている。そこから覗く顔は、ほとんど無機質のような雰囲気である。グレーで描かれたその表情の内面に、このような激しい感情を抱えているようなイメージ。そういった表現に作者の強いエネルギーが感じられた。

4室

松尾勇氣「緘黙」梅田画廊賞



中村晋也「名月をとってくれると泣くと泣く子かな」「一茶」。小林一茶の句をテーマにした作品を出品している。今回、特に母子の愛情のイメージが穏やかに彫刻されている。月を指差す子供の愛らしさと、何とも言えない表情を見せる母の姿が見る者の心に染み渡ってくるようだ。

中村晋也「名月をとってくれると泣く子かな」「一茶」



楠元香代子「ダフネ」。女性像を思わせる抽象的な表現が端的で魅力的である。ほとんど感覚的に造形していく中に、強いイメージの物語が感じられる。ギリシア神話に登場し、月桂樹に変えられたエピソードを持つダフネが、作者のイメージによって作品として引き寄せられたようだ。

楠元香代子「ダフネ」



勝野眞言「跡」。女性の胸像である。磁器で造られているようだ。透明感のある肌の調子が魅力であるが、どこかくすんだような雰囲気を見せてもいて、痛々しくも感じられる。髪飾りのいびつなフォルムが特徴的で、無表情でありながらも何とも言えない余韻が感じられた。

勝野眞言「跡」

